

## II 排泄 1. 大便

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くなったのか
-------------------------	--------------------------------

### II-1-8) 下半身の衣類を身につける

両足を中に入られるか?	できない、左右がわからない。	全介助、介護者の手を添えて言葉をかける。
ボタン、ファスナーなどをかけられるか?	ボタン、ファスナーなどをかけることができない。	介護者が行う。 ボタン、ファスナーのないズボン(ゴムが入っているもの)に変更する。
	ファスナーを上げ忘れる。	「開いてるよ」という声掛けで認識する。
	フックなどが嫌で、したがない。	ベルトなどで代用。

### II-1-9) 手洗い

#### 洗手の行為

水道栓を回す	水道栓の形が変わるとできない。	水が出る方法を伝える。 介護者が一緒に手を添えて操作する。
	水道栓を回せない。	さりげなく脇から水道栓を介護者が回す。 介護者が一緒に手を添えて操作する。
下手に水流を位置させる	手を水流の下に位置させることはできない。	手を持ち誘導、声掛けをする。 貯め水を使用する。
	便器の水流の音に反応して、便器内で洗う。	もう一度洗いなおす、一緒に洗う、否定しない、監督しない。

#### 石鹸をつける

石鹸つかむ	つかんで離さない。	「次に私も洗いますので石鹸を貸していただけませんか」と声掛け。
	固形石鹸は分かるが液状石鹸は認識できない。	固形石鹸を置いておく。
	石鹸を食べてしまう。	ネットに入れて下げておく。
手全体に広げられる	広げられない・一部分だけを撫でまわしている。	介護者が隣にたち、洗い方をみせる。
	手の甲までは洗えない。	吹きつけの除菌活用する。
液状石鹸を手につける	液状せっけんが石鹸であることがわからない。	介護者が隣にたち、洗い方をみせる。 固形石鹸を使用する。
	ポンプを押して反対側の手に出すことは難しい。	「手を拡げて」と言葉をかけ、介護者がポンプを押して石鹸を出す。
手全体に広げる	石鹸を手全体に広げない。	介護者が全体に広げる。 介護者の真似をせよ。
	手に広げる前に、顔を洗ってしまう。	顔に興味が移らないように、介護者が間に入り動作を誘導する。

II 排泄 1. 大便

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

すすぎ

蛇口の下に手を置く	蛇口の下に手を置くことができない。	片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れさせる。
		介護者がやって見せて真似してもらう。
		「手を洗いましょう」と伝える。
		まず水を出す(水が出ていれば一人で可能)。

全体を洗い流す	すすぎ残しがある。	「もう少しできれいになりますよ」「ここに石鹸が残っていますよ」などと言葉かけし、再度洗い流すように促す。
---------	-----------	--

手を拭く

タオル向かう等に	雑巾、タオル、洋服、エプロンの区別が出来ず、布なら何でも拭こうとする。	目の引くタオル(色)を用意して、タオルで拭くことを伝える。
	拭かない。	洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら介護者が拭く。

でタオルを拭く	こすらずにさするだけ。	その本人のやり方を尊重する。
---------	-------------	----------------

II-1-10) 開錠する

開錠する	開け方がわからない。	外から開錠できる鍵を導入。
		介護者が開錠する。
		鍵を取り外す、あるいは施錠しない。
		「鍵をあけませんか」と声で誘導。
		開錠の手順をゆっくり説明する。

II-1-11) 外へ出る

外へ出る	トイレ内で回ってしまっ一人で出てきにくいことがある。	はい！とか行こう！と言うと言葉をかける。手引き誘導をする。
		手引き誘導をする。

II 排泄 2. 小便

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手いったのか
-------------------------	-------------------------------

II-2-1) トイレに行く

移動	トイレの場所がわからない。	トイレの表示を「便所」に変える。廊下にトイレまでの "→" 表示を行う。
		場所を指し示す。声かけ(オシッコですか?手を洗いにいきましょうかなど)、あるいは手引き誘導。
		トイレに目印をつける。動線をシンプルにする。
		トイレ行きましようと言いつつ声をかけ続ける。印をつける。
		「便所」と貼り紙をする・一定のトイレへ誘導する/肩をなでたり、腕を組んで安心してもらう。
		頼める存在になる(選ばれる)。尿意のサイン(股間を触る、怒りっぽくなる、歩けないのに立とうとするなど)を読み、意思を確認する。
	トイレ誘導の拒否(大声・暴力・無動)。	声掛けのタイミング(席を立った時に誘導など)をはかる
	立ち上がろうとしない・バランスが取れない・歩を進めない。	二人介助で立位のバランスを取ってから歩を進めるよう介助。

トイレのドアを開ける	ドアの開け方がわからない。	"→" などの表示。
		介護者が扉をあげ、「トイレですよ」と指さす。
		ドアを開ける介助。
		開けてあげて誘導する。矢印をつけ引き戸をイメージできるようにする。
		事前にドアを開けておく。

トイレに入る	トイレに入るがまた外に出てしまう。	声掛けしながら、トイレに再誘導。方をなでたり腕組みをして安心できるようにする。
	トイレに入りたがらない。	前に自宅に居る人で個室に入りたがらないので、座ったところの正面に、ファンだというので歌手のポスターを貼って、歌手のところに行こうと言うと、回転させる誘導が楽だった。 家のトイレは入口側に向かって座るので180度回転しないとイケない。施設のトイレはL字バーがついていて、そこからわりと広く入るので、本人が入りたがらないと、まず向こう側の手すりにつかまってもらおう。そうすると誘導しやすい。無理矢理座らせなくて、手すりに掴まって前に何かがあるといい。そうすると回転させやすい。みんな、回転させるのが難しいので。
	便器に背を向けて立っても、その後着座できない。	介護者の片方の手で患者のおなかを軽く押すと着座ができる。その時背中が後ろに反ってしまう患者には、もう片方の腕で患者の肩を抱き、肩を前方へ軽く押して着座しやすくなるようにする。
	便所に入室しても自分から着座しない。	施設では便座の横にあるL字バーを握ってもらい、介護者は認知症者の身体に手を添えて便座に背を向けるよう90度回転させる。L字レバーがなく家庭の便所では(便所内で着座するまで180度の回転を要する)認知症者の手を持ち肩を抱いて誘導してきた流れで、その手と肩を180度回転させるように力を加え便座に背を向けてもらう。

## II 排泄 2. 小便

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
便器に至る	便器に自分から近づけない。	入り口から180度回転して便器に座るタイプのトイレと、90度回転して横にずれるタイプのトイレがある。施設は広く中で介助する時には90度身体を回すトイレが多いかと思う。L字型の手すりが付いているので、まず前の手を取って手すりに掴ませると動作が誘導できる。『オシッコですねと繰り返しながらやさしく手を添えて誘導。』
	中の様々なスイッチや水槽のふたなどを気にしてさわり始めてしまい、座ろうとしない。	「この茶色い棒の所握れる?」と便器の一番近い場所を手で握るように言葉かけするなど、便座に座る動作を誘導する。
	便器の前の方で座ろうとする。	座る目印(手すり)を提示。
	洋式トイレでは便器と認識できない。	通常の和式トイレと同じような形のポータブルトイレを利用する。
施錠する	施錠できない。	施錠の介助する。あるいは施錠しない。 「鍵をかけませんか」と声で誘導。 施錠の手順をゆっくり説明する。
	扉をしめない。	気付かれないようにそっと扉を閉める。

### II-2-2) 便器に向う(男性のみ)

便器に立つ正面	便器までの距離が遠い。	男性トイレの受け口を広く改造する。 足を置く位置に目印をつける。
	便器の正面に立つことができない。	本人の腰部をゆっくりと動かし正面に立たせる。

### II-2-3) 便器の扱い(女性のみ)

蓋を開ける	蓋があると、蓋を上げることがわからない。	蓋を上げたままにしておく。 「トイレの蓋を開けましょう」と言って一緒に開ける。	
	開けてある蓋を閉める。	便器の蓋を開けておくことを言葉がけする。 便器の蓋を外しておく。	
	便座に座る	便座に座ることができない。	動作を模倣してもらう。

各部座に適切に位置に	適切な位置に座ることができない。	座る前の足の位置を適切な場所にする。 「もう少し後ろに座って」「もう一歩前にどうぞ」など深く座ることを言葉やジェスチャーで伝える。
------------	------------------	--

### II-2-4) 衣服を下ろす・衣服の一部を開く

#### 男性

ファスナーを下げる	ファスナーを下げられない。	介護者が行う。
	ファスナーの使い方がわからない。	ゴムタイプのズボンに変更。

II 排泄 2. 小便

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

下着の裏からペニスを裏から出す	ペニスを十分に出さないまま排泄する。	介護者がズボンを下げると行える。
-----------------	--------------------	------------------

ペニスを当てる向きに手	便器の中にうまく尿を出せない。	トイレットペーパーを乗せる。
	ペニスをつかめないので便器に向けても尿が届かない。	座って排尿するよう声掛けする。
	ペニスを下に向けない。	両大腿部ではさみ下を向けるよう介助。

女性

スカートのズボン等を下げる	介助にて下衣を下すが、すぐに上げようとする。	両手に何かを把持してもらう(手摺り・清拭等)。
	拒否。	時間をかけて介助する・声掛けして動作促す。
		介護者を男性スタッフから女性スタッフへ変更。
	時間を要する。十分に下げられない。	ゴムひものズボンを着用する。

下着を下げる	拒否。	介護者を男性スタッフから女性スタッフへ変更
		時間をかけて介助する・声掛けして動作促す。
	下着やリハビリパンツを十分に下げられない。	ゴムが緩い下着やリハビリパンツを着用する。
		介助する。
介助にて下衣を下すが、すぐに上げようとする。	両手に何かを把持してもらう(手摺り・清拭等)。	

いずれも適切な位置で止める	拒否。	時間をかけて介助する・声掛けして動作促す。
	適切な概念がわからないので、足首まで下げきる。	下げきってもよしとする。
	ほとんど下げていない。	下げられない方は、介助。

## II 排泄 2.小便

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

### II-2-5) 排尿行為

いきむ	いきむことができない、腹圧をかけられない。	介護者はいきむ表情を見せて、同じ表情をしてもらう。
		前かがみ、前傾姿勢になってもらう。
		腹部を軽く圧迫する。
		腹圧がかかるよう、笑ってもらえるようにする。

排尿中は動かない	排泄の途中で立ちあがる。	排泄中であることを言葉がける。
		雑誌などを手渡す。
		トイレを暖かくしておく。
		音楽やオルゴールをかけ、落ち着いて座っていられるようにする。
		介護者が本人の視界に入らないようにする。

### II-2-6) 後始末(女性のみ)

巻き取り	ペーパーを巻き取ることができない。	ペーパーの位置を伝える。
------	-------------------	--------------

拭いた紙を捨てる	自分のポケットにしまい込む。	少し間を開けてからしまい込んだペーパーを渡していただく。
	拭いたペーパーを手に握っている。	「中に捨てて良いよ」と位置を指さして示す。
	枠外にはずれる。落とすと詰まるといって落としたがらない。	籠の準備。
	便器に捨てることが理解できない。	手を洗うよう促し手に持った紙から手を離してもらう。

### II-2-7) 水洗で流す

ハンドルの操作	流さない。	利用者の手をハンドル・ボタンに誘導し一緒に流す。
		特に指示することなくワーカーがさりげなく流す。
		ボタン近くに大きな説明文をつける。
		ボタンの操作を口頭で説明する。

## II 排泄 2. 小便

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

### II-2-8) 大便と同様に衣類を身につける

両脚を履く中に	できない、左右がわからない。	全介助、介護者の手を添えて言葉をかける。
ボタン、ファスナーをかけるなど	ボタン、ファスナーなどをかけることができない。	介護者が行う。
	ファスナーを上げ忘れる。	ボタン、ファスナーのないズボン(ゴムが入っているもの)に変更する。
	フックなどが嫌で、したがない。	「開いてるよ」という声掛けで認識する。
		ベルトなどで代用。

### II-2-9) 手洗い

#### 洗手の行為

水道栓を回す	水道栓の形が変わるとできない。	水が出る方法を伝える。
		介護者が一緒に手を添えて操作する。
	水道栓を回せない。	さりげなく脇から水道栓を介護者が回す。
		介護者が一緒に手を添えて操作する。
下手に水流させる	手を水流の下に位置させることができない。	片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れさせる。

#### 石鹸をつける

石鹸つかむ	つかんで離さない。	「次に私も洗いますので石鹸を貸していただけますか」と声掛け。
	固形石鹸は分かるが液状石鹸は認識できない。	固形石鹸を置いておく。
	石鹸を食べてしまう。	ネットに入れて下げておく。
液状石鹸を手につける	液状石鹸を手につけることができない。	介護者が行う。
手全体に広げる	手全体に広げることができない。	介護者が行う。

## II 排泄 2. 小便

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
すすぎ		
蛇口の下に手を置く	蛇口の下に手を置くことができない。	片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れさせる。

全体を洗い流す	すすぎ残しがある。	「もう少しできれいになりますよ」「ここに石鹸が残っていますよ」などと言葉を掛けし、再度洗い流すように促す。
---------	-----------	---

### 手を拭く

タオル向かう等に	雑巾、タオル、洋服、エプロンの区別が出来ず、布なら何でも拭こうとする。	目の引くタオル(色)を用意して、タオルで拭くことを伝える。
	拭かない。	洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら介護者が拭く。

でタオルを拭く	こすらずにさするだけ。	その本人のやり方を尊重する。
---------	-------------	----------------

### II-2-10) 開錠する

開錠する	開け方がわからない。	外から開錠できる鍵を導入。
		介護者が開錠する。
		鍵を取り外す、あるいは施錠しない。
		「鍵をあけませんか」と声で誘導。
		開錠の手順をゆっくり説明する。

### II-2-11) 外へ出る

外へ出る	トイレ内で回ってしまって一人で出てきにくいことがある。	はい！とか行こう！と言うと言葉をかける。 手引き誘導をする。
		手引き誘導をする。



### Ⅲ 手を洗う

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

#### Ⅲ-1) 洗面の場に行く、適切な位置に立つ:身体とシンクの位置関係

洗面の場に行く	洗面所の場所がわからない。	洗面所にお連れして洗面の必要性を想起していただく。
		言語指示。あるいは、一緒に行く。
		手引き誘導。

#### Ⅲ-2) 洗手の行為

水道栓を回す	水道栓の形が変わるとできない。	水が出る方法を伝える。
		介護者が一緒に手を添えて操作する。
	水道栓を回せない。	さりげなく脇から水道栓を介護者が回す。
		介護者が一緒に手を添えて操作する。

下手に水流をさせる	手を水流の下に位置させることはできない。	手を持ち誘導、声掛けをする。
		貯め水を使用する。
	便器の水流の音に反応して、便器内で洗う。	もう一度洗いなおす、一緒に洗う、否定しない、監督しない。

#### Ⅲ-3) 石鹸をつける

石鹸つかむ	つかんで難さない。	「次に私も洗いますので石鹸を貸していただけませんか」と声掛け。
	固形石鹸は分かるが液状石鹸は認識できない。	固形石鹸を置いておく。
	石鹸を食べてしまう。	ネットに入れて下げておく。

べき手全体に広げられる	広げられない一部分だけを撫でまわしている。	介護者が隣にたち、洗い方を見せる。
	手の甲までは洗えない。	吹きつけの除菌活用する。

液状石鹸を手	液状せっけんが石鹸であることがわからない。	介護者が隣にたち、洗い方を見せる。
		固形石鹸を使用する。
	ポンプを押して反対側の手に出すことは難しい。	「手を拡げて」と言葉をかけ、介護者がポンプを押して石鹸を出す。

手全体に広げる	石鹸を手全体に広げない。	介護者が全体に広げる。
		介護者の真似をせよ。
	手に広げる前に、顔を洗ってしまう。	顔に興味に移らないように、介護者が間に入り動作を誘導する。

### Ⅲ 手を洗う

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

#### Ⅲ-4) すすぎ

を下蛇 置に口 く手の	蛇口の下に手を置くことができない。	片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れてもらう。 まず水を出す(水が出ていれば一人で可能)。
-------------------	-------------------	--

全 体 を 洗 い 流 す	すすぎ残しがある。	「もう少しできれいになりますよ」「ここに石鹸が残っていますよ」など言葉がけし、再度洗い流すように促す。
---------------------------------	-----------	---

#### Ⅲ-5) 手を拭く

タ 向 オ カ ル う 等 に	雑巾、タオル、洋服、エプロンの区別が出来ず、布なら何でも拭こうとする。	目の引くタオル(色)を用意して、タオルで拭くことを伝える。
	拭かない。	洗い終わったらすぐに「手をふきますよ～」と声かけながら介護者が拭く。

で タ 手 オ を ル 拭 く	こすらずにさするだけ。	その本人のやり方を尊重する。
--------------------------------------	-------------	----------------

#### IV 顔を洗う

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

##### IV-1) 洗面の場に行く、適切な位置に立つ:身体とシンクの位置関係

洗面の場に行く	洗面所の場所がわからない。	言葉をかける。
		一緒に行く。
	洗面所への移動を嫌がる。	蒸しタオルを使用する。

##### IV-2) 洗顔の行為

手を水の流れの下に	手を水流の下に位置させることができない。	蒸しタオルで拭くことを全介助。
		介護者がやって見せる。
		水を出せば水流の下に出させる。
	洗面台の淵をつかんで手が出せない。	支えながら、手を伸ばすよう誘導。

##### IV-3) 手に水を受ける:掌に水を掬う

両手をくっつけて曲く	指をつけて両手で曲面を作ることができない。	介護者がやって見せる。
		蒸しタオルを使って全介助する。

曲面に水を受ける	曲面に水を受けることができない。	介護者がやって見せてから一緒にする。
		蒸しタオルで拭くことを全介助する。
	ぬらした手を顔につけている。	介護者がやって見せてから一緒にする。
		蒸しタオルで拭くことを全介助する。
	行動はできるが両手をくっつけて水をためられない。	洗面器等に水をためて使う。

##### IV-4) 洗顔

石鹸を全体に広げるとも:掌面に	掌に石鹸を行き渡らせて顔面全体に広げることができない。	全介助。
		蒸しタオルを使って全介助する。
	洗顔クリームと歯磨きチューブを間違える	洗顔クリームと歯磨きチューブを間違えるので洗顔クリームは手渡す介助。
	石鹸で顔を洗う習慣がない。	本人の習慣を認める。

掌を持って顔に行く	掌を顔面を持って行くことができない。	全介助。
		蒸しタオルを使って全介助する。
	顔面の一部にしか届かず、目を閉じるのでふらつきやすい。	転倒に注意しつつ、手を出せる距離の傍にいる。

掌で顔を洗う	掌で顔を洗うことができない。	全介助。
		蒸しタオルを使って全介助する。
	顔の一部をパッチングするような形で終わってしまう。	全介助。 蒸しタオルを使って全介助する。

#### IV 顔を洗う

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

##### IV-5) すすぎ

蛇口の下に手を置く	蛇口の下に手を置くことができない。	片手をゆっくりと誘導しぬるま湯に触れさせる。
		介護者がやって見せて真似してもらおう。
		「手を洗いましょう」と伝える。
		まず水を出す(水が出ていれば一人で可能)。

全体を流す	全体を洗い流すことができない。 流水の感覚や音が怖い、手を入れたがらない。	全介助。
		蒸しタオルを使って全介助する。
		洗面器に溜めて、その中で洗う。

##### IV-6) 手を拭く

タオルかろう等に向	雑巾、タオル、洋服、エプロンの区別が出来ず、布なら何でも拭こうとする。	目の引くタオル(色)を用意して、タオルで拭くことを伝える。
	拭かない。	洗い終わったらすぐに「手をふきますよ」と声かけながら介護者が拭く。

で拭く手／顔を拭く	タオルを使おうとしない。	タオルを手渡し。
	まだ濡れていても止めてしまう。	「このあたりを拭きましょう」と指差しながら伝える。
	拭かずに、他者に渡そうとしたりバケツに入れてしまう。	何度も手渡し、手を拭くように促す。

## V 歯磨き

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

### V-1) 洗面の場に行く、適切な位置に立つ:歯ブラシが取り出せる、口がゆすげる

洗面の場に行く	洗面所の場所がわからない。	言語がけをする。あるいは、一緒に行く。
		手引き誘導。
	言葉がけが理解できず、誘導困難。拒否。	移動せず、自席にて行う。

適切な位置に立つ	離れて立つ。	言葉がけをする。
		体に手を添えて適切な位置まで近づく。
	シンクの前に横を向いて立つ。	腰部をかるく押さえゆつくりと近づける。

### V-2) 歯ブラシの用意

取り出す: ペーラースト	自分の歯ブラシと人の歯ブラシが区別できない。	介護者と共に取り出す。
		本人用のコップにセットしておく。
	ペーストがわからない。	ペーストを手渡す。

### V-3) ペーストを歯ブラシに付ける

チューブを外すのふた	キャップ式が多いので蓋が外せない事がある。	蓋を外す介助をする。
		キャップ式は外せないが、回してつける蓋ならできる。
		言葉がけをする。
	外さず出そうとする。	「蓋を外していない」ことを伝える。

チューブを出してペーストを塗る	ペーストの適量がわからない。	その都度、適量を伝える。
	ペーストを食べる。	使用する際は介助者が対応。歯磨き以外は介護者が管理する。
	ペーストをおしろいと間違えて顔に塗る。	使用する際は介助者が対応。歯磨き以外は介護者が管理する。
	整髪料のように髪に塗る。	使用する際は介助者が対応。歯磨き以外は介護者が管理する。

ペーストを付ける	ペーストをブラシに付けることがわからない。	介護者が行う。
	両手同時に操作むずかしい。	歯ブラシをもってもらいチューブはワーカーが出す。

一旦歯ブラシを置く	チューブを汚さないように置くことが出来ない。	歯ブラシをたてるためにコップを示す。
	一旦歯ブラシを置くことがわからない。	介護者が行う。
		はじめに介護者がやって見せて、一緒にする。

チューブをふたを閉める	ふたがわからない。	介護者が一緒にする。
	回して締めることがわからない。	介護者が一緒にする。
	開けることより閉めることが難しい(開けっ放し)。	介護者が少し閉めてから本人に渡す。

チューブを元の位置に戻す	どこにあったか、覚えていない(場所を忘れる)。	戻す場所を言葉で伝える。
	元の位置に戻すことがわからない。	介護者が行う。

## V 歯磨き

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

### V-4) 歯を磨く

歯ブラシを持つ	歯ブラシの認識なく、物品をうまく使えない。	使い方をわかりやすい言葉で伝える。 介護者がやって見せて真似してもらう。
	持つことは可能だがブラシを反対に持ったり柄を持つ。	適切な向きにして持たせる介助を行う。
口を開ける	口を開けない(目的が理解できない)。	口角を刺激する。
		ほほから口元へのやさしくマッサージする。
		介護者が一緒に口を開ける。
歯をブラッシングする	持つがブラッシングできない。	介護者が目の前で同じ動作をする。
	ブラッシングをすぐに終わりにしてしまう。	前・奥などブラッシングする部分を伝える。
	洗面台をブラッシングしようとする。	歯ブラシを口に入れる介助をする。
歯ブラシを置く	歯ブラシを置くことができない。	「もうそろそろいいですよ」と声かけしながら手を差し出す。

### V-5) ゆすぎの水を用意する

コップを手に持つ	コップを持たない。	コップに水を入れて手渡しする。
	コップを持つことを嫌がる。	マグカップ使用し、もつ部分を明確にする。
	コーヒーカップの形は持ちにくい。	目の前のコーヒーカップの形は持ちにくい。上が広くて下が縮まっている方が良く、持ち手の耳の部分が大きいと、持った手の位置とコップが離れていると行動が難しいし、重い水のコントロールが難しいので、耳が細長く、長く付いていて、コップの縁にピッタリ沿っていて、コップが少し斜めの方がいい。実はコーヒー喫茶も運営しているが、皆こぼして火傷をする話も出て、いくつものコップを購入しているいろいろな人に使ってもらった時にストンと真っ直ぐなコーヒーカップは飲む時の水流のコントロールが難しかった。少し縁が開いていて、先が狭まっていてどっしり安定感があって、指が三本くらい入るもの。三本指を入れて掴めるもの。いくら狭まっていたほうが使いやすいが、あまり狭まっていると倒れる。耳の形をしているが、指が3本入る、取っ手に指が3本入って掌で掴みやすいもの。不安定になったら指が3本入るものがいい。
水道栓を回して水を出す	水道栓を回すことができない。	介護者が行う。
	手を洗ってと介護者が言う水道栓を回すことができなくなる。	介護者は話しかけるのを止めて、離れて見る。
	上下レバーが理解できない。	言葉がけする。行えない場合は介助行う。
流水を受けるコップ	流水をコップに受けることがわからない。	介護者が行う。
	コップの水があふれてもそのままにしている。	水道栓を介護者が閉める。
	量の調節ができない。	水道栓を介護者が閉める。

### V-6) 口をゆすぐ

## V 歯磨き

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手いったのか
コップの水を吸い込む	吸い込むことが出来ずこぼす。	顔を前屈させコップを唇に当て口に流し込む・むせの評価が必要。
	頸を充分伸展できず、コップが傾けられない。	ノズコップ等を活用する。
	コップから飲めない。	スパウト等を活用する。
	コーヒーカップから飲むとこぼす。	飲み口が広く底が狭いコップでを活用する。
口の中をゆすく	ゆすぐことができない。	「ブクブクしましょう」と、ゆっくり・はっきり伝える。
	飲み込んでしまう。	介護者がやって見せる。
		洗面器を用意しその中に出してもらう。
水を吐く	水を飲みこんでしまう。	吐くタイミングに合わせ「べ」と口頭で伝える。
		「吐き出しましょう」とゆっくり・はっきり伝える。
		飲み込むことを止められないので、ペーストをつけない。

### V-7) 歯ブラシを片付ける

歯すすぐしを	歯磨き後の歯ブラシをすすがない。	介護者が行う。
	水にぬらすのみ。	本人が水にぬらした後、介護者が行う。
	洗面台をブラッシングしようとする。	「洗面台は終了」したことを伝える。
水ブをラ切るの	水で流した後、そのまましまう。	介護者がブラシの水を切る。
の歯位置ラにシ戻す元	歯ブラシを持ち歩く。	声掛けして本人から介護者があずかる。
	歯ブラシを戻す位置が解らない。	コップの所にたてるよう示す。
	元の場所以外の場所に放置する・バック、懐にしまい込む。	時間がたってから回収する。

## VI 食べる

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

### VI-1) 食事の場に行く:歩行・移動

歩行・移動する	目的地の位置を理解していない。	言葉がけする。 手引き誘導。
	食事に誘っても移動しない。	嗜好品を持って行き、「食堂で食べましょう」と誘う。
	食事が目の前にないと歩き続ける。	本人が食堂にやってきましたら早めに食事を配ぜんする。
	食事時間が解らない。	「お腹がすいたね」等食事の話題を出して誘う。
	食事に集中できない。	空間を変えて再度言葉掛けする。

### VI-2) 適切な位置に座る:体と椅子・机の位置関係

適切な位置に座る	椅子とテーブルの距離が遠い。	本人の了解を得ながら、ゆっくり押す。 一旦立ってもらい、椅子を机に寄せる(介助)。
	椅子を見ずに座る為、斜めに座っていたりしている。	声かけ・ジェスチャーにて修正を促す。
	座面の端、アームに座ろうとする。	腰を下ろす際に本人の殿部の位置にあわせて椅子を設置する。
	テーブルから離れたところにある椅子に座り、自分からテーブルのほうへ近づこうとしない。	腰を下ろす際に本人の殿部の位置にあわせて椅子を設置する。

### VI-3) 食物の認識

食物だとわかる	おかずや何が並んでいるかはわからない。	今日のメニューを伝える。
	おしぼりなどをくわえる、食べ物以外も口に入れる。	危険なものは置かない、壊れないもの、触れるものを置く、満足感を支える。
	ゼリーを固形物だと認識できない。	ゼリーを介護者がくずす。
	食べ始めない・口をひらかない。	おいしい食べ物であることを伝える。
		嗜好品を用意する。
		食器の色を変えてご飯がわかるようにする。 一口目を介助して食べ物であることがわかるようにする。
様々な食品を混ぜる。	本人の前に食器を1つずつ置く。	
食物と理解するまでに時間がかかる。	右手に箸、左に茶碗を持ってもらう。	

その性状(温度、新鮮さ、堅さなど)がわかる	一度、口に入れるが出してしまう(口腔内での認識が低下している様子)。	「これは〇〇ですよ」と伝える・軟らかい物にする。 味を濃いめに付ける。
	みそ汁や残飯に手を入れ、口に運ぶ。	ぬるめの温度のものを配膳する。



## VI 食べる

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

### VI-4) 平皿の上の食物の操作

箸、スプーン類で切る、裂く	切る・裂くことができず、そのまま口に入れる。	「小さくしましょうか」と尋ねてから本人の前で切る。 切り裂くのを手伝う。 あらかじめ切り裂いておく。
	箸とスプーンを一緒に把持する。箸とスプーンを交互に使いこなすことができない。	本人の前に置く食器を1つにして、それに使うもの(箸、スプーン、フォーク)だけを置く。
	箸を1本で使用する。	2本手渡す。
	箸で食べ物をつまむことができない。	左右合わせると先割れのスプーンになるような箸を利用すると、どのような形態の食べ物でもつまみ、口に入れることができる。

箸、スプーン類でつかむ、乗せる	手づかみで食べる。	そのまま手で食べてもらい、後の手を拭いてもらう。
	スプーンに乗せる量が多い。	小さいスプーンに変更する。 一口大に分けておく。
	スプーンの裏に乗せる。	適切なスプーンの向きにして渡す。
	皿の模様を食品だと思い、スプーンにのせ続ける。白い皿に、白い食器だと、食品の認識がしにくく、乗せない。	平皿から少し深めの皿に変更する。模様のない皿に変更する。色付き食器に変更する。


## VI 食べる

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか
-------------------------	--------------------------------

### VI-5) 口まで運ぶ

箸、スプーン類を口まで運ぶ	口に食べ物を運べない。	口まで届くよう介護者の手を添える。
	口の手前でこぼす。	座位姿勢と頭部の位置を改善する。
		器や食事の形状を工夫する。
		テーブルの高さ、スプーンの形状を調整する。
口の前で動作がとまる。	口にスプーンがつくように介護者の手を添えて誘導する。	
口を開けて食物を受け取る	口を開けない。	好き嫌いを確認し好きなものを用意する。
		空腹を確認する。
		食べ物の形状を変え崩して口へ運ぶ。
	口唇を刺激して開口を促す。	
開口が小さい。おちよぼ口になってしまう。	スプーンの先端からの摂取ではおちよぼ口になってしまう為、スプーンの色々な部分から摂取して頂く。	

### VI-6) ご飯と汁物を口に入れる

茶碗を持つ	茶碗を持つことができない。	持ちやすい大きさ(小さめの器)に変える。 介助して持ってもらおう。 そのまま茶碗を持たずに食べてもらう。
茶碗に近づける	茶碗を口元に近づけられない。	姿勢、頸部・体幹の柔軟性を促す。 介助する。
箸・スプーン類を使って茶碗からご飯や汁を口に入れる	こぼしてしまう。	つかみやすい形状にする(小おにぎり等)。 スプーンの形状改善(福祉用具の工夫)。握りを太くする、さらに握り部分と口に入れる部分のコネクトをやわらかい曲がる素材とし、角度が変えられるスプーンを利用する。 静かな環境を用意する。
	スプーンを上手に使えない。	スプーンの握り部分を太くして握りやすくする。さらに握り部分と口に入れる部分のコネクトをやわらかい曲がる素材とし、角度が変えられるスプーンを利用する。 

## VI 食べる

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手いったのか
-------------------------	-------------------------------

### VI-7) 咀嚼・嚥下する

咀嚼	咀嚼をしない。	「かみかみしましょう」と言葉で誘導、口腔内の痛みを評価。 少量を口に入れ頬の刺激で噛み始める。
	咀嚼時間が長い。	少量ずつ取り込めるように介助する。 嚥下するように、喉や口角を指先2本くらいで軽くタッピングする。
	食べ物を口の中にためこみ咀嚼しない。	口唇の周囲やほおを軽くポンポンと叩くと(刺激すると)咀嚼が始まる。効果的な叩く部位は個人差がある。
	食べ物をはきだす。	食形態を検討する。 顔面・首周りのマッサージをする。
	周囲が気になり集中できず咀嚼しない。	集中できる環境(1人テーブル)にする。

嚥下	嚥下しない。	咽頭痛の確認・空腹感の評価・摂食嚥下機能評価・環境調整。 少量を口に入れる。
	食べ物が口腔内に残っているが、さらに詰め込みむせる。	ゆっくり食べるよう伝える・小さいスプーンに変更。 適量づつ渡す。

吸う	吸えない。	鼻閉の評価。 スプーンで丁寧に介助。
	吸わずに吹いてしまう。	一口味見をして体験してもらう。
	コップやお椀から吸うことができない。	ストローで対応する。
	麺類を吸えない。	1口大に切って提供。

### VI-8) 総合評価

#### 食事を万遍なく摂取するか？

食品を万遍なく摂取する	ご飯等一品づつ食べてしまう。	ご飯の上に少量ずつおかずを乗せる。 他のお皿を一つずつずらして勤める。
	空の食器にいつまでも食事道具を当てている。	小分けにして食器の位置を移動させる。
	ご飯だけ残している。	ふりかけをかけて味を付けて提供する。
	おかずを別の皿に移動させて混ぜてしまう。	お茶碗に少しづつおかずを載せる。

## VI 食べる

各行為についてケアが難しかった 生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア (介助)をしたら上手くいったのか
-----------------------------	------------------------------------

### 左右の手の協調技術はどうか？

茶碗や皿からこぼさない	こぼす。	こぼしたことを非難しないでそっとかたづけろ。
		手前に食器を置く。
		皿の形を変更。
		食器、素材、食形態、食事の量の工夫。
	自助具の検討。	
かき込む様に摂取する為、こぼしが多く衣類が汚れる。	ゆっくりと摂取するように声かけ、食事用のエプロンではなく、ナイロン生地のお灸着を着用していただく。	

率協 調的 動作 で 作効	協調で効率的動作ができない。	やろうとする行為に対して「手伝いますか」と聞く。
---------------------------	----------------	--------------------------

引手 動き 前へ 動作 寄せ の	手前への引き寄せ動作ができない。	食べるお皿を手前に引く介助をする。
---------------------------------	------------------	-------------------

### マナー

犬食 い	犬食いをする。	姿勢、椅子が不適切でないか確認する。
	皿をなめる。	やさしく話しかけて、食べる動作を一旦止め、その後あらためて箸やスプーンなどを使って食べ始めてもらう。 食べ物がなくなった皿はさりげなく下げていく。

手づ かみ など	手づかみで食べる。	手づかみでもかまわない形状にする(例:おにぎり)。
		崩れにくい形態に変更。大きさなど考慮。
		箸やスプーンを持ってもらう。
	静かな環境を用意する。	
スプーン操作が疲れると手づかみが出る。	おにぎりやつまめる形で食べやすくする。	

### 食物の温度などの性状に応じた対応が可能か？ 熱いものは吹くなど

性食 状物 がに 対応 温度 かた など 対応 の	熱いものを認識できず、静止しても食べようとする。	介助者で温度確認。
	熱いものを冷やす動作はせず、飲むことをやめる。	飲みやすい温度に調整する・傍に寄り添って「さます」行為をする。